学校番号	3029

令和８年度 学 ＳＳ理数

教科	学 ＳＳ理数	科目	（学）ＳＳ数学Ⅱ	単位数	前期２	年次	２年次
校内名称	数学Ⅱ 数学Ｂ	ユニット数	前期２．０ 前期２．０		必選別	必修	
使用教科書	数学Ⅱ（数研出版），数学Ｂ（数研出版），数学C（数研出版）						
副教材等	４STEP数学Ⅱ＋Ｂ＋Ｃ［数列、統計的な推測、ベクトル］（数研出版）， Focus Gold数学Ⅱ（啓林館） Focus Gold数学Ｂ＋Ｃ［ベクトル］（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

（１）教科書を読み込む予習をする

① 事前に教科書を読みわからないところを明確にしておくことで授業中の集中力が高まる。

② 授業で習ったところをその日のうちに復習する。教科書を再度読み込み自分で自分に説明ができるようにする。

③ 数学では復習が極めて重要である。

（２）問題集を解く

① 問題集は時間をおいて繰り返し解く。

② わからない問題を放置しないこと。まずは参考書で調べ，それでもわからなければ質問して速やかに解決しておく。

③ 計算を軽んじてはいけない。

（３）参考書を活用する

① 参考書によって，答案の書き方を身につける。

② 詳しい解説が載っていることもあるので，普段から参考書を読むことを心掛ける。

（４）問題集・参考書は学校で買ったものを十分に活用する

① いろいろな問題集・参考書に手を出すよりも，一冊に繰り返し取り組み，完全に理解する方が効果的である。

また，数学の問題を解く上で大切なことは「解き方を覚える」のではなく，「自分の持っている知識を使って解いていく」ことである。すぐに解答に頼らず，自分で考える習慣をつけること。

2　学習の到達目標

対数関数，図形と方程式，微積分，ベクトル，数列について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。また，事象を数学的に考察し表現する能力を養い，それらを活用する態度を身につけることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。 数学において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学の考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
評価方法	考査 課題レポート 行動観察	考査 課題レポート 行動観察	課題レポート 行動観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学習の活動　　校内名称「数学Ⅱ」

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間考査まで	指数と対数	常用対数	a:指数・対数の意味とその必要性を理解し，人間の感じ方の尺度に対数が活用されていることについての知識を身に付けている。 b:指数の逆として対数をとらえ，指数法則から積，商，累乗の対数を導くことを考察することができる。 c:指数・対数の性質について関心を示し，具体的な事象に活用することができる。	考査	考査	課題レポート
	数列	Σの性質 色々な数列の和 群数列 漸化式 隣接三項間漸化式 数学的帰納法 不等式と帰納法 いろいろな証明	a:数列や漸化式，数学的帰納法の基本的な概念を理解し，知識を身につけている。 b:いろいろな数列の規則性を見つけ，一般項やその和を考えることができ，漸化式から一般項を導く方法を考えることができる。また，自然数に関する等式や不等式などの証明で，数学的帰納法を適用することができる。数列の規則性を見つけ，その一般項や和を求めることができ，漸化式で表された数列の一般項を求めることができる。また，数学的帰納法を利用して等式や不等式を証明することができる。 c:数列とその和及び漸化式と数学的帰納法に関心をもつとともに，その有用性を認識し，事象の考察に活用しようとする。	考査	考査	課題レポート
前期期末考査まで	微分	微分係数 導関数 接線 関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式	a：導関数の定義にしたがって，関数を微分することができる。また，接線の方程式を求めることができる。接線とその方程式，極値，関数の最大値と最小値について，その意味と求め方について理解し，基礎的な知識を身に付けている。 b:導関数の意味をグラフと関連づけて，数学的に考察し，関数の値の増減やグラフを利用して，方程式の実数解の個数を調べたり，不等式を証明したりできる。 ｃ:平均変化率，微分係数，導関数の考え方に関心を持ち，導関数を活用して関数の値の変化を調べようとする。	考査	考査	課題レポート
	積分	不定積分 定積分 面積	a:微分と積分の関係，定積分の定義，面積と定積分の関係について理解し，簡単な図形の面積の求め方の知識を身につけている。 b:直線や放物線に囲まれた簡単な図形について，その面積の求め方を数学的に考察することができる。関数の和，差および定数倍の不定積分を求めることができる。また，定積分を用いて，直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 c:微分の逆演算としての積分，および面積と定積分の関係に関心をもつ。	考査	考査	課題レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

校内名称「数学Ｂ」

期間	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間考査まで	図形と方程式	平行・垂直 円の方程式 円と直線、2つの円 軌跡 不等式の表す領域	a:図形と方程式・不等式を互いに正しく表現することができる、図形と方程式の性質を理解している。 b:方程式を図形的に捉え活用することができる c:図形と方程式の関係に関心をもちそれらを問題解決に活用しようとしている。	考査	考査	課題 レポート
前期期末考査まで	ベクトル	平面上のベクトル ベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 ベクトル方程式	a:座標を用いた表現や平面・空間のベクトルの演算を利用して図形の性質を表現できる。 b:ベクトルを用いて，平面図形の性質などを考察することができる。図形の考察に座標やベクトルを用いて処理することができる。 c:ベクトルに関心を持ち，それを平面図形の考察に活用しようとする。	考査	考査	課題 レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度